

講演会名           にいがた摂食・嚥下障害サポート研究会主催  
新潟大学大学院医歯学総合研究科 共催  
地域における摂食・嚥下障害への取り組み

日 時               5月12日（土） 午後1時から午後4時

場 所               新潟大学歯学部講堂

講 師               渡部 守先生（佐渡）  
高橋 堅護先生（柏崎）  
塚田 徹先生（福島 竹田総合病院）  
辻村 恭憲先生（新潟大学）

#### 概 要

本講演会では、地域に根差して病院，在宅，施設にて摂食・嚥下障害のサポートを行っている先生方にお集まりいただき，それぞれのお立場からご講演いただきました。

渡部先生は，居を構える佐渡を取り巻く環境に即して，ことに施設における口腔ケアの取り組みのチーム作りとアセスメント表の活用についての工夫をお教えいただきました。高橋先生は，開業されている柏崎市の在宅の患者様の中から，嚥下困難症例についての取り組みを，地域の病院や内科との連携で行う上での苦労やチームアプローチの必要性を交えて語られました。塚田先生は，勤務先である竹田総合病院における急性期，回復期などの患者様へのアプローチの中で，作業療法士としての立場から，摂食嚥下という限局した機能のみならず高次機能や食器具等々の環境を考慮した食事介助の重要性について触れられました。辻村先生は，新潟大学医歯学総合病院での臨床のみならず地域の施設との連携の中で必要とされる発見者や検査者，訓練者，そして調整者などの要素が必要であり，ことに在宅医療においては **Trans disciplinary team** として機能するためには調整者が不可欠であることを強調されました。

講演会を通して，周囲に期待したり，相手が動くのを待つのではなく，自ら問題を発見して解決するというコンセプトのもとに，要介護者の支援を可能とする環境を能動的に探していくことが必要であると改めて痛感しました。

講演会中には，別室にて研究会会員および Pentax 社様の展示があり，多くの参加者が見学されました。

なお，本講演会の参加者（当科スタッフ，関係者は別）は 76 名でした。  
※別紙にアンケート結果を掲載

## 参加者によるアンケート結果（有効回答数 51）

### 1. 性別

男性 31%      女性 69%

### 2. 年齢

20 歳以下 0%      21～40 歳 63%      41～60 歳 35%      60 歳～2%

### 3. 職業

会社員・公務員 1 名      医師 2 名      歯科医師 18 名      看護師 5 名  
言語聴覚士 8 名      管理栄養士 2 名      歯科衛生士 10 名      学生 6 名  
その他 1 名

### 4. 今回の講演会はいかがでしたか

大変よかった 61%      よかった 31%      普通 8%      あまりよくなかった  
またはよくなかった 0%

### 5. またこのような講演会に出席したいと思いますか

是非出席したい 60%      都合がつけば出席したい 40%

### 6. 自由記載

・患者様によくなっていたくためには、ご本人およびご家族や他の職種間で協力するのはとても重要な事だと思います。今回の講義で、協力をえるためには情報のやり取りが大切だという事を改めて感じました。専門がどうかに関係なく伝える・理解する姿勢を持ちたいものです。

・在宅で仕事していると、歯科医師ともっと連携をとりたいと思うことがしばしばありますが、往診してもらうにも、手続きがあつて時間がかかり、家族も面倒くさくなってしまうので、その点を改善して歯科医師にもっと在宅に出てもらいたい。

・摂食・嚥下リハへの取り組みについて話を聞くことができ良かったです。参考にさせて頂こうと思います。ありがとうございました。

・食形態についての講演もお願いします。どんな障害があつたらどんな食事がいいのかなど、味や形も含め、管理栄養士のお話もききたいです。

・新潟県でも、脳卒中地域連携パスが運用されていますが、歯科領域の方々の参画があればよいと思います。

・若い歯科医師が在宅に関心を持ち取り組んでいる佐渡の例をお聞きできて、そういう Dr が増えてくれるといいなと思いました。

・内科医やリハ医から嚥下障害に対するアプローチのニーズがあることを歯科医師がしっかり受け止めてほしい。

・介護老人福祉施設とデイサービスに勤務している歯科衛生士です。摂食嚥下機能や歯科疾患で口腔内に問題を抱えているご利用者と日々接しています。食事摂取の様子を動画で撮影し、在宅や施設に居ながら「にいがた摂食嚥下障害サポート研究会」の先生方に、動画を送って相談出来るシステムを作っていただけないでしょうか？

・現在ケアマネとは、連携を取りつつ、訪問口腔ケアを実施してきています。他職種との連携が重要と言われておりますが、嚥下リハの事を考えると ST さん以外にも OT さんや PT さんと協力していく事で、効果が出てくると思えました。今後連携の必要性を感じました。

・日常臨床において嚥下リハビリテーションの長引いてしまう症例があります。嚥下リハのゴールの設定法として、具体的な事例を含めてご教示いただければ幸いです。

・新たに摂食嚥下リハビリの連携システム作ろうとしているところです。多職種と協力してうまく機能しているチームの例をみて勇気づけられました。

・塚田先生の講演を聞いて、当院でも ST だけでなく PT, OT ももっと積極的に嚥下・摂食に興味を持ち訓練をしてくれたらいいと感じました。PT, OT, ST などの職種間での壁のようなものを取り除き、情報交換を密に行っていく必要があると感じました。

・意志疎通が困難な患者さんへの嚥下訓練や、義歯調整などについても知りたいと思いました。(寝たきりの患者さんへの義歯治療などどうやっているのかとか)

・日々の迷いの一部が今日の講演会で一つ解決しました。チームアプローチ(チーム間の温度差やモチベーションの差)のむずかしさについて悩む日々です。参加できてよかったです。絶対数の多い NS や介護がもっとこの講演をきいてくれたらいいと切に感じます。

・それぞれの病院や施設の取り組みが知れてよかった。もっと訓練内容や具体的な内容をくみこんでほしい。

・個々の事例をもう少し詳しく聞きたかった。

・直接訓練を中止する基準など施設・病院ごとに異なると思うので、次回、伺えたらと思います。

・摂リハの実際の臨床にふれることができる良い機会でした。

・辻村先生の講演にあった様に摂食嚥下で困った時に対応できるシステムを地域ごとに作る必要があると感じました。まず、摂食嚥下障害に対応できる医療機関リスト作ってみませんか。

・地域・在宅医療に興味あり参加させていただきました。チーム・連携の中で薬剤師がどのようにかかわれるかを考えています。今回の講演の中にも大きな

ヒントがありました。ありがとうございました。

- ・私たちが学生の時、摂食・嚥下の講義はなく、摂食・嚥下機能訓練は難しいという感じがあります。(訓練などの実技を含む)。ぜひ、地域の嚥下講習会を定期的にひらいて、新しい将来は、大学と地域の歯科医師、在宅の医師とのネットワークを作って頂きたいです。

- ・摂食・嚥下サポートチームを立ち上げや取組について具体的な方法などを知ることができ、今後の活動に是非参考にさせて頂きたいと思いました。

- ・システム構築していく中で、チーム医療の大切さがわかりました。

- ・塚田先生の講演で、OTが摂食嚥下分野の取り組みをされているというお話がとても珍しく印象的でした。やはり多職種が情報を共有し、チームで取り組んでいくという体制は重要であると思われました。

講演会風景

